



鳥取こども学園 学園だより

第34号
2013年12月1日

○発行
鳥取市立川町5丁目417番地
鳥取こども学園後援会
電話 (0857) 22-4206
http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/
○振込口座
郵便振替 01490-9-9106
題字 尾崎悌之助

鳥取こども学園 常務理事・園長 藤野 興一

日本における社会的養護改革のパイオニア施設としての 社会福祉法人鳥取こども学園を更に、更に支えてください

法人運営基金創設と希望館生活棟の老朽改築資金として 五千万円募金にご協力ください。

「主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。すると男たちが中風を患っている人を床に乗せて運んで来て、家の中に入れてイエスの前に置こうとした。しかし、群衆に阻まれて、運びこむ方法が見つからなかった。屋根に上って瓦を割き、人々の真中のイエスの前に、病人を床ごと下り降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。」(ルカ5:17-20)

クリスマス

●物心両面で鳥取こども学園を支えていただいていますことに感謝します。

創立以来百七年、本当に多くの方々に支えられてきました。いつまでも学園を心の故郷として想ってください。学園同窓生・旧職員の皆様、地域・全国から支援くださる個人・団体、行政関係者、毎月欠かさず一〜十万単位のお金を送ってくださる若いOB、商店主、公務員、医師、などなど本当にたくさんの方々に支えられて今の学園があることを覚えます。改めて心より感謝申し上げます。

●制度に子どもを合わせるのではなく、子どもに合わせて制度を変えてきた鳥取こども学園は制度改革のパイオニアです。

社会福祉法人鳥取こども学園は、慈善事業の時代から、子どもの人権を守る最後の砦として冒頭の聖句にあるように、屋根に上って瓦を剥がしてでも、子どもを救済する姿勢で事業を展開し、日本の社会的養護のパイオニアの役割を担ってきたと自負しています。

がざるを得ません。
●更に、来年度、希望館生活棟の老朽改築が必要で、
昭和四十九年に児童養護施設の幼児年少児・女子棟として建てられたものを改造して使ってきましたが、地盤沈下によって建物が傾き、危険な状態にまでなっており、建て替えを実施することとしたものです。
既に、プロポーザルを実施し、(株)山下設計工房に設計をお願いし、基本設計及び事業計画を次のとおりとしました。

(一) 整備内容 1192.66㎡

第一児童棟、新設ホーム、木工陶芸室等

(二) 事業費

内訳	
交付金	125,460千円
補助金	94,095千円
借入金	50,000千円
鳥取こども学園	7,815千円
(借入金の内20,000千円の募金を)	

●職員配置基準も平成二七年度から改善される可能性が見えてきました。あと一息です。ご支援ください。
児童養護施設・乳児院の職員配置を、ケアワーカー〇〜一歳児一・三対一、二歳児二対一、三歳以上児三対一、小学生以上四対一、情短施設の職員配置をケアワーカー三対一、心理職七対一への引き上げが実現すれば、我が法人の先行的実践を上回る制度的前進が図られることとなり、経営的にも改善されることが期待できます。ご理解ください。

●昭和三十六年、十対一の職員配置の時代から小舎制養育に踏み切り、国の施設整備基準を上げるホームを次々に建て、子どもに必要なことは万難を排して実践し、現在の子どものための総合福祉センターとしての体制を創り上げ、国の「社会的養護の課題と将来像」推進の先頭に立てているのも皆様の「支援のお陰」です。
●しかし、更に皆様のご支援が必要です。法人運営基金創設(三千万円)と希望館生活棟の老朽改築資金(二千万円)、計五千万円募金にご協力ください。
必要に迫られて公益事業として展開している事業やパイオニア的に開始された多くの補助金事業は、やればやるほど赤字になる事業もあり、清算払いの事業まで現れ、一定の回転資金が不可欠です。皆様の「ご支援」に支えられながら、毎年綱渡りのようなぎりぎりの運営を繰り返してきました。少しでも安定した法人運営をするためには回転資金として三千万円程度は必要で、当座はつなぎ資金の借入れによって凌

法人本部

常務理事・園長
藤野興一 記

① 法人本部の財政基盤強化のために

平成二十六年から新会計方式に変えるのを機会に各施設バラバラに行われていた事務部門を統合し、法人総務部として新たな分業体制を作り、人事管理の統合、会計管理の統合を図ることとした。合わせて現在の緊急課題となっている法人運営基金創設をはじめとして、本部の財政基盤強化のために後援会組織と連携して法人財政部を組織したい。

② はまむら作業所をB型から「移行型」へ

施設等のアフターケア事業を展開している「ひだまり」や「ニート引きこもりの人たちの就労促進事業を展開している「こころ若者サポートステーション」で停滞する障害者の就労場所確保のために、二年前に就労継続支援B型事業所としてはまむら作業所を作りました。

しかし、二年間大幅な赤字経営で、本部財政逼迫の要因ともなっていました。

赤字の一因として利用者A型や一般就労に移行させる支援をすることで利用者が増えることがあります。はまむら作業所は関連機関と連携し、利用者のニーズに合わせてB型でありながら移行型の支援も行ってきました。県東部には就

労移行支援事業所が不足していることもあり、平成二十六年から移行型で再スタートすることしたい。応援してください。

③ 自立援助ホーム倉吉スマイルを鳥取市内に移転することとしました。

倉吉スマイルは当初、農業を取り入れて自立支援するとして、現在の倉吉市閑金町に開設しました。しかし、最近の入所児童は、市内のサービス業等に働きに行くものがほとんどで、車で送り迎えするのが常態化してきました。少ない職員配置のもとでは過重な負担となり、児童処遇に支障を来すようになり、鳥取と倉吉に分散した二つの自立援助ホームを鳥取に固めることにより本施設や鳥取フレンドとの連携を強化することとしたものです。ご理解ください。

④ 人材確保と職員育成のために人事部、研修部の強化を図ります。

毎年年初の一月以降に実施していた次年度職員採用試験を今年は十月十九日に実施しました。全国的に保育所の幼保一元化や待機児童対策などに押されて、泊まりや夜勤のある社会的養護の部門には人材が集まらなくなっています。人材派遣会社が保育士を青田刈りしている実態もあります。

人材確保と研修体制強化を図ります。

⑤ 子育て王国鳥取県に日本一の社会的養護を構築し、地域児童福祉の拠点としての活動を強化します。

鳥取ごども学園は、今お預かりしている子どもたちや保護者の方々ばかりでなく、鳥取市、鳥取県、日本の子どもたちの未来を切り開く存在として、子どもたちと共に役職員一丸となって前進します。一層のご支援をお願いします。

児童養護施設

鳥取ごども学園

目指せ大学進学！とその現状

主任保育士 田中敦子

現在、たんぼホームには三歳から入所し高校三年生になるT君と、小学校一年生で入所し高校二年生になるH君の二名が進学に通い大学進学を目指しています。

彼らは親からの経済的な支援は見込めず、奨学金に頼らなければ到底大学進学は出来ません。また、T君は県外の大学は経済的な負担が大きいため、県内の国公立を目指しています。合格しても児童養護施設は二十歳になれば必然的に退所となり生活費、学費をまかなうためハイ

トをする必要があります。本人もその事は理解しており、大学進学を目指し、受験勉強も大変な中、土日の早朝にチラシ配りのバイトをしています。

様々な奨学金がありますが、返済義務がなく、高額助成を受けられるというような条件の良いものは数が少なく、応募しても難しいというのが現状です。

一般家庭の大学等の進学率が六十%を超えた今日、児童養護施設の子どもたちの大学等の進学率は二十%以下となっています。

今年の同窓会で同じ年頃の子を持つ同級生にポロッとこの話をしたところ数日経ったある日、私に白い封筒を手渡し、「昨日なあ、財布を落としてなあ、何万円も入ってるしカードはあるし最悪だと思って落ちこんでたら拾ってくれた人がおって出てきたなあ。」と。

「私も大学に行かせるとの子がおるけえ六万も包めんけど無くなったと思ったもんが出てきたけえ、少しでもその子達のために使ってもらったの。」感激し、感謝でいっぱいになりました。様々な人の支援が子ども達にも私たちにも支えとなります。

再来年受験をひかえている子は、県外の大学に行くという夢を持っています。ともなるとさらに資金が必要となってきま



がらまだ完全ではありません。それでも、私は、経済的には苦しくても、それはなんとかなることだと思っています。

す。出来れば少しでも多くの方々に支
援頂ければと思っています。
T君が奨学金応募のために書いた作文
を掲載します。
希 望
私の希望は、大学に進学して地域政策
を学び、卒業するまでに教員免許を取得
して、卒業後なるべく早く鳥取県内の中
学校か高等学校へ就職することです。そ
のためには、当面の目標である大学合
格に向けての勉強をしています。成績は
今のところ、目標には達していません
が、模試の結果などで自分の出来ない
ところを知り、そこに重点を置いて勉強
を進めているので、着実に目標との差は
縮まってきていると実感しています。ま
た、私は児童養護施設で暮らしていて、
母も福祉施設に入所しているので、家族
からの経済的な援助は期待できません
が、多くの人たちの助けにより、私の希
望である大学進学に向けて少しずつ近づ
いてきていると感じています。しかしな

というのは、前にも書いた通り、多くの
人たちのつながりや、貴財団を含む様々
な助成制度が存在するからです。となる
と後は、私の努力だけだと思います。な
ので、受験までの四ヶ月を教員になるこ
の希望を持って頑張りたいと思います。

乳 児 院

鳥取子ども学園乳児部

どんぐりホームを移動して思うこと

院長 田 中 佳代子

一年がかりでどんぐりホーム増築移転
を計画し、今年度八月に完成した増築建
物での生活を始めました。より家庭的に
という職員の願いから対面式キッチン・
幼児用便器を設置しない等検討しまし
た。建物の完成につれて、単独ホームに
なることへの職員の不安は募ったのです
が、この数ヶ月の子ども達のさらなる安
定ぶりに驚き、職員も励まされました。
開設当初よりホームごとの生活をしてい
たにもかかわらず、三ホームが壁一枚で
隣接していた事で、ざわざわとした生活
になっていたことを知らされました。本
体施設二ホームでも落ち着きを感じま
す。本体施設も一ホームを一・五倍の面

積とし、食事場所と寝室を独立した形に
改造中で皆が楽しみにしています。

「どんぐりホームの職員より」

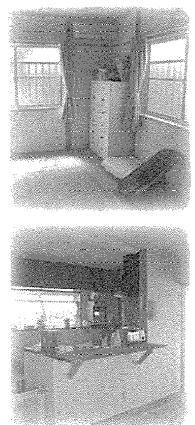
中井史子保育士 新しい建物に移って

四ヶ月。新しい畳の匂いで気持ちよく
寝る子どもたち。一階からの景色を見
ながら「あっ(川で)かもさんが泳い
でる!」「汽船だー!」とはしゃぐ子
どもたち。今までの生活にはなかった
階段を、手すりを持ちながらゆっくり
上り下りをする子どもたち。部屋も広
い空間になり、子どもたちは喜んで走
り回っています。職員も広い浴室で子
どもたちと長い時間、お風呂で遊んで
しまつこともしばしば…。

以前は洗濯物を三ホーム合同でして
いましたが現在はホーム毎に洗濯をし
ています。子どもたちはその姿を見
て、子どもなりに洗濯物を干したり、
たたんだりしてくれます。家庭では、
当たり前にある姿なのですが、子ども
の手伝う姿が見え、日々新しい発見が
あり驚いています。

これからも子どもが安心・安全に生
活できる様、職員同志で話し合い、よ
り良いどんぐりホームを作っていき
ます。

園田秀幸保育士 新どんぐりホーム、な
かなか見晴らしがいいですよーパラン



夕のすべ横を鳥たちが飛んでいたり、
汽車もパッチリ見えて、子ども達と
おっいー、ってよく手を振っています。

中林美香保育士 新どんぐりホームへ移
り、家庭的な雰囲気の中で子ども達と
毎日楽しく過ごしています!キッチン
も大きくなり、食事やおやつ作りに大
活躍しています。

奥田知行保育士 より家庭的な雰囲気
新どんぐりホームです。子どもも職員
もゆったりとした環境で生活していま
す。自慢は大きなカウンター式キッ
チンです。

片山舞子保育士 家庭的な雰囲気自慢
の新どんぐりホームです。院庭を挟
んで少し離れています。子ども達の
元気いっぴいの声と笑顔があふれてい
ます。

内藤奈己保育士 小規模になり、より家
庭的な雰囲気になりました。子ども達
も新しい環境に慣れてきた様子で、毎
日元気に過ごしています。カウンター
式キッチン、もう少し活用していきたい
と思います。

情短施設

鳥取子ども学園希望館

館長 西井 啓二

希望館が新しくなる!!

希望館の改築チャレンジは、改築の基本設計の完成を見て新しい一步を踏み出しています。希望館のスタッフは、子ども達の視線で新しい希望館のイメージを三年間暖めてきました。いよいよ実現に向けてスタートしようとしたのですが、大きな壁に突き当たりました。なににより、私達が建築や設計のプロじゃないということなのです。

私達の気持ちやプランを形のあるものにしてくださる設計士さんを選ぶところから、途方に暮れていたところに出会ったのが、同じ町内にお住まいの森本博美さんです。森本さんは鳥取県建築士協会会長をしていらっしゃるのですが、何かアイデアをいただけないかと聞いて、建築士協会に電話で相談したら、お忙しい森本さんが偶然、電話に出てくださいました。「希望館の改築チャレンジをしています。」設計者をプロポーザルで選出したのだがやり方が解らない。「という二つの質問だけで」学園に行きますか

らスタッフの皆さんと一緒に考えましよう。」とのこと。快く二つ返事で相談に乗ってくださるようになりました。

その後、森本さんの御助言をいただき設計者の募集・提案のヒアリング・そして選定へと一気に進みました。夏以降も希望館スタッフと選定業者（山下設計工房）と森本さんも交えて細部の打ち合わせを重ね、十一月に基本設計の完成までたどり着きました。

振り返ってみれば、私達のチャレンジは、いつもスタートラインです。ゴールがあつてゴールも見えているのですが、何もしないと進まない、自分たちだけでは進まないということを身にしみて感じ、そして森本さんをはじめ、設計士の方や県庁や市役所の皆さん等々、たくさんの方に支えていただいきチャレンジが進んでいることに深く感謝しています。基本設計が完成したことで、また新たなスタートに立ちました。何よりも私達希望館スタッフの「子ども達の最善の利益」という強い心を常に抱き続けなければ、ゴールには到達できません。引き続き、皆さんの暖かい応援と見守り、そして御助言をお願いします。



保育所

鳥取みどり園

みどり園の最近の様子を紹介します!

* 年長児クラスより

Aちゃんの誕生会の時の「コマ

「誰が好き?」

「H君とN君が好き!」

「だって髪の毛短いもん!」

それを聞いた、B君はお母さんに

「髪の毛を切りに行こう!」

切り終えると一言

「よし...これで短いな...」

と満足そうに鏡を見ていたそうです。

心はすっかりお兄さんですね♪

* 年中児クラスより

今年の秋は二週連続の台風の接近で運動会、徒歩遠足などが雨で思うように行われなかったこともあり、子ども達から「テルテル坊主作ろう!」という声が上がりました。

そこで樫谷公園への遠足に向けてテルテル坊主作り開始!

可愛らしいいろんな顔のテルテル坊主を窓に飾り、お祈りしました。

遠足当日は...最高の秋晴れ。

子ども達も最高の笑顔でテルテル坊主

たちに見送られながら出発しました。

お弁当を食べながら空を眺め...「テルテル坊主が晴れにしてくれた」と笑顔いっぱいでした。

* 年少児クラスより

最近みどり園では泥団子作りが人気! お兄さんや、お姉さんたちが硬くてピカピカ光る泥団子を作るのを見て、「作ってみたいなあ〜」

見よう見まねで作ってみるのですが、なかなかうまくいかず、「できん〜」すると年中児さんが「水が多すぎるだ〜」「(ひび割れたら)こっすらで〜」と優しく言葉をかけながら教えてくれました。まだまだ完成には至りませんが、いつかきつと...子どもたちの挑戦は続きます!

* 二歳児クラスより

先日、園庭にできた大きな水たまりに数人の子も木を枝をたらしして何やらしています...

保育士「何してるの?」

子ども「さかな釣り」

保育者「つれた?」

子ども「釣れたで!」

保育者「何が釣れたん?」

子ども「ひらめとか...魚!」

指差したその先にはどんぐりが...ほほえましい光景でした。

*一歳児クラスより

砂場の周りでのぐんぐんひろいを毎日楽しみにしているりす組さん。今日もぐんぐんを見つけてました。大事そうに両手で持ち、そーっと保育者に見せてくれるNちゃん。

「先生が持つといてあげようか?」と言うと、首を横に振り自分のズボンのポケットにボタンとしましては、すぐに出して眺め…ぼとん…。宝物見つけたね。

*〇歳児クラスより

月齢差も大きく発達段階も様々な子どもたちは、少しずつ友達を意識するようになり、同じ場所で同じ遊びをしたり笑ったり、追っかけてくをしたりすることも。ある日、五か月のKちゃんに授乳しているとき、一歳五か月のYちゃんがやってきて頭をなでてニコッとする姿が見られました。保育者も思わずニコッとする場面でした。

*看護師より

朝食を食べずに登園する子どもが意外と多く、給食担当者の協力も得て、朝お茶と煮干(熱中症対策も兼ねて)を提供しました。その甲斐あってか、猛暑を乗り越えた子どもたちは、一段またぐましく又、頼もしく感じられ…!!!といいはほえましく思いながら眺めています。今は、感染症予防のために『手洗い…うが

い』の大切さを知らせ、元気で過ごせるように働きかけています。

*子育て支援センターより

四月当初はまだハイハイをしていた子どもたちが、今ではしっかりと足取りで歩く事もでき、成長を感じています。子育ての悩みを話し合う場や、情報交換をしながら、リラククスして過ごせる空間を心がけています。『共に子育てを楽しめる仲間作りの場』としてお手伝いをしていきたいと思えます。

*給食室より

二〇一三年夏、あの森三中大島美幸さんが二十四時間テレビで見事八十八キロ完走しました。途中、愛情たっぷり母の作ったカレーをおいしそうに喰らいついてる大島さんの姿は実に気持ちがよく微笑ましく思えました。

母の味は素晴らしい! そうです! みなさんも子ども達に親の愛を伝えませんか?

そんな事を感じながら、かわいい子どもたちにおいしい給食を作り続けます!

We Love カレー!



診療所

二歳の発達クリニック

院長 川口 孝一

『人間万事塞翁が馬』を越えて

苦を共に嘆き味わえる

(慈悲) 存在でありたい

前回の学園便りで、今回は「コミュニケーションの音楽性についてお話したい」と言っていました。変更させてもらって、またまた前回ご紹介したミスターチルドレンの『擬態』と言う曲の中の他の一節を紹介させていただきます。

皆さんは中国の古い書物『淮南子(えなんし)』に書かれている『人間万事塞翁が馬』と言うお話を存知でしょうか。日本のことわざ『禍福はあざなえる縄のごとし』に近い事を言っているものです。

このお話は次の様なお話です。城塞のそばに老人が住んでいました。ある日、老人の飼っていた大切な駿馬(足の速い馬)が逃げてしまいました。それを知った近所の人たちは気の毒に思い、老人をなぐさめます。ところが老人は悲しみをせず、「このことが幸福にならないうちも限らないよ」と答えました。す

ると、数カ月経ったある日、逃げ出した馬がたくさんの良い馬をつけて帰ってきたのです。それを知った近所の人たちがお祝いを言いに行くと、老人は喜びもせず首を振って「このことが災いにならないとも限らないよ」と答えました。しばらくして、老人の息子がその馬から落ちて足の骨を折ってしまいました。それを知った近所の人たちがなぐさめに行くと、老人はまた悲しみをせず「このことが幸福にならないとも限らないよ」と答えました。一年が経ったころ、異民族たちとの戦が始まりました。城塞近くの若者は皆、戦に行きました。その戦は激しく、十人に九人が亡くなりました。しかし、老人の息子は足を負傷していたので、戦に行かずに済み、親子ともども無事でした。

この様に、幸福が不幸を招いたり、不幸が幸福を招いたりする事があります。私は日々の臨床に於いても、何か悪い事態やトラブルが生じたら、能天気かも知れませんが、このマイナスの出来事はどうのようにプラスに転じて行くだろうか、プラスに活かせないだろうかと考えています。そして実際そうなる事は多い様に思います。

私は『人間万事塞翁が馬』のお話が座右の銘と言っても良いくらい好きです

が、辛い出来事に向き合った時は、次の様な事も考えます。

人間は死んだら無に帰すると思っ
ています(残念ながら私は無神論者です。神を信じられる人を羨ましく思っています。すが、捨くれ物の私は未だ神に出会っていません。『あの世』など無いと思っ
ています)。生には終わりがあり(終わりがあるから辛い事も耐えられるのだと思
います)、誰も死を避けては通れませ
ん。そして死ぬ時は誰も何も持っ
ては死ねません。『苦』も『楽』も背負っ
ては死ねません。だとすると、生きて
いる時の『苦』と『楽』は等価では
ないでしょう。ならば、『苦』が『楽』
に転じるのを信じて待つのも良いか
も知れませんが、『苦』を『苦』のま
まに味わうと言う事もありません。
う事もありません。うか。うか。

ここで『擬態』の話になりますが、
ミステルの桜井さんは『擬態』の中
で、『マカセを 真実を すべて自
分のものに』でたらめを 誠実を
すべて自分のものにできたなら も
っと強くなるのに…。現在(いま)を
越えて行けるのに…。と歌っています。
これは『人間万事塞翁が馬』の様に、
プラスに転ずるであろうマイナスを
受け入れようと言っているのではな
く、マイナスは

マイナスのままに受け入れて味方
にして言っているのだと思います。こ
れは『人間万事塞翁が馬』を越え
た、より深い悟りだと私は思
います。

とは言っても、『苦』を味わ
うと言っ
ては程簡単ではありません。特
に一人では、出来れば『苦』を
共に味わってくれる人が傍に居
て欲しいものです。仏教で言う『慈
悲』も、『上の者から下の者へ
の哀れみ慈しみ』を意味する
のではなく、『苦』を共に嘆く
と言っ
ては、私
もクリニックで出会う方々
にとっ
て、そう
言っ
て『共に在る』存在でありたい
と思っ
ています。

児童家庭支援センター「希望館」

所長 西井 啓二

子育ては、一昔前には母親の役割と決ま
っていました。父親も子育てに参
加し
ようという声が上がるとなっ
て、今
は男女共に子育ての役割があるのだ
とい
う時代になってきました。鳥取県は「子
育て王国」として、を合
い言葉に様々な子育て支援が展開
されて
います。鳥取県の子育ては、子
どもの
視点で子どもの利益を優先した
文化が
根ざして
います。最

も大事なことは子育てが美しい海
山川の豊富な自然とセットになっ
てい
るのだと思
います。素敵な子育てサー
ビスも、
コンクリートに囲まれた環境では、
た
くさんの創意工夫が必要になっ
てしま
います。四季折々に風景を
変える自然を見て育つ
のとビルと人混みの中で育つ
のと
では、大人になっ
ても心の中
には違っ
た風景が見えてくるの
じゃないか
なと想っ
て
います。

とはいえ鳥取だから「子育てに心配
不要」ということではありませ
ん。子
育てには不安が
つきもので不安のない
子育ての方が最も不安だと思
います。子
どもが生まれて父となり母とな
った皆
さんは一様にこの不安を抱
きながら日々を
子どもと過ごさ
ざるを得
なくな
ります。子育て不安があるから
子ども家庭支援センターがある
のだと理
解して
いらっ
しやると思
います。でも、子育てに不安
が
つきものなら、不安をなく
して安心
を提供する
とそれは最も危険な
子育てに
なっ
てしま
います。

私達は、皆さんの不安を不安のまま認
め、も
っと深い不安に落ち込み
そうにな
ったとき家族の方や子
ども達に「大丈夫だよ」と
手を差
し伸べたり、時には立ち
ふさが
って押しとどめる
ことが
役割な
のです。

子どもへの虐待は、家族の強い不安
が呼び起
こすのだと思
います。そして加害者を
極悪人のように報道
されて
います。子どもを産み
捨てた母親、殺して
しま
った父親等々の報道の
度、皆
さんは「何故、誰も止
めな
かつたのか？」と思
われる
でしょう。子ども家庭
支援センター「希望館」
のスタ
ッフも同
じように思
います。少し違っ
たのは「何故、私の
ところ
に来て
くれな
かつたの
だろ
うか」ということ
です。「誰か
が」では
なく「私が止
められ
なかつた」
こと
に心が
痛み
ます。

た
くさんの「相談をお受け
しますが、最初は些細な
小さな不安です。ほと
んどの方は小さな不安
を自
分の力で乗り越えて
子育
ての喜
びに代
えて
いらっ
しやるのですが、中
には
小さな不安が大きな
不安に膨らんでしま
う方
もあ
ります。小さな不安でも
大きな不安でも、子
ども
家庭支援センター「希望
館」の
役割が
必ずあ
ります。地域の
子育て
支援を担
う一員
として
今
後も見
守っ
てくだ
さる
よう
願っ
て
ま
す。



里親支援とっとり

里親委託等推進員 吉田 信彦

里親さんとの行事

里親支援機関事業「里親支援とっとり」は、鳥取県全域の里親さんに係る様々な業務を執り行っています。本来業務の傍ら、里親さんが行われる行事のお手伝いをしています。

鳥取県の里親さんが相互交流・相互支援する会「鳥取県里親会」は、東部・中部・西部の三部会に分かれており、それぞれが独自性を持って運営しています。活動の一つに「里親・里子・児童養護入所児童ふれあい交流事業」があり、児童らとの遠足、入所施設でのバザー、農業体験など多種多様なイベントを開催しています。各地域で行われるイベントのお手伝いに行き、普段ゆつくりお会いできない里親さん、里子ちゃん、他施設の児童や先生とたこ焼きを作ったり、大きな芝生で走り回ったりするのは、とても楽しい時間です。

先日は中部の畑で「土に親しむ会」がありました。例年の行事なのですが、多くの子どもたちが集まって手を掘り、

沢山のカレーをおいしくいただきました。解散後は、里子たちをホールで遊ばせ、大人たちでサロンを行いました。お話の内容は、芋掘りの感想、久しぶりに会った子どもたちの様子、社会的養護全般・制度の真面目な話、里子との暮らしの些細な出来事などなのですが、行事の後のおしゃべりは留まることを知りません。

みんなで共通のことに取り組み、それを着に盛り上げることは、どんなに大きな事業よりも、相互連携に繋がることではないでしょうか。

今度はどんなイベントがあるだろう、と思いつきながら、次に協働できる日をこころまことにしています。

自立援助ホーム 鳥取フレンド

職員自己紹介

指導員 高津 健信

今年度から鳥取フレンドで勤務しています。鳥取県でも学園に勤めて五年目になりましたが、フレンドでの生活は刺激的な事ばかりで、学びごと、勉強しなければならぬことがまだまだ多くあるな

と痛感しています。良く笑い、良く悩み、時々叱り、子どもの成長と共に私自身も成長させてもらえたらなと思います。

保育士 國本 京子

二十年近く幼児に関わり、はじめて十代の子とも達と関わることになりました。先日、はじめての年金が入り、大喜びの私は、とてもテンションが高く、子ども達にジューズをおこりました。その事がきっかけで今まで口をきかなかった女の子と普通に笑ったり、話したり出来るようになりました。そこで六十歳になったおばちゃんは、反省しました。「職員の気持ちや、子ども達にとても反映するのではないかと」と。この気持ちを忘れないで、まだまだ成長していかなくては...

補助職員 岩崎 恭子

今年の四月から鳥取フレンドに勤務しています。この半年の間、研修等で色々勉強させていただきました。福祉の世界に入ったばかりの私にはどれも為になるものはかりです。その中でもやはり一番学べるのは現場です。子ども達から受ける様々なことは、一つ一つが驚きであり、感心であり、それを受け入れ対処される先輩職員の方々を見習って少しでも成長

していきたいと思っています。

当然ですが、フレンドにいる子ども達の持っている背景は一人一人違います。皆、自立する為にはそれぞれの目標、課題をクリアしなければなりません。「フレンド」という一つの家で生活して自立を目指すのもまた、難しいことです。それでも成長が見られたり、子ども達の表情が明るく変化していくのを見ると「フレンドに来て良かった」と思います。願わくば、子ども達自身がさっと思つてくれれば、せめて「フレンド」という一つの家が後悔することのない空間であってほしいと思います。

自立援助ホーム 倉吉スマイル

寮長 田村 崇

九月二十九日の日曜日、倉吉スマイルがある関金町の町民大運動会が開催されました。

昨年からの地域の自治活動に積極的に参加する意味もあり、進んで体育部の役割を引き受けています。年間行われる関金町の体育行事（地区の小運動会、グラウンドゴルフ、大運動会、卓球大会）に関する役割があるのですが、地域から一番求

められているのは、それぞれの大会に選手として出場することです。そうです、若い力なのです！お年寄りが多く生活されているこの地域で、スマイルで生活している子どもたちの若い力が期待されています。もれなくこの町民大運動会でもその期待の眼差しは強く、子どもとスタッフ総出で、すべての競技に出場し、約二十地区ある参加チームの中で、堂々の総合三位の成績を収めることが出来ました。また、十一月十一日日曜日に行われた卓球大会にも出場し、チーム戦の男女混合ダブルスにスマイルの若手の男子と女の子がペアを組んで、チームの中でも期待のペアとして、健闘してくれました。

子どもたちは、最初は緊張や恥ずかしさもあるのか、競技が始まるまでは、面倒くさそうにしていたり、「出るの嫌だ」と何度も口にしていたりしていますが、いざ競技が始まると真剣な目をし、一生懸命競技を行っていました。勝ったときは満面の笑顔を見せ、ハイタッチ！負ければこれでもかというくらい悔しそうな顔をします。とても良い経験をさせてもらっているなと感じます。大会後の慰労会も楽しみの一つです。焼き肉があったり、お弁当をもらったりジュースをもらったり、地域の方々に褒めてもらった

り。そして何よりうれしいのが、子どもたちの名前をちゃんと覚えてくださったという方々が増えて、名前を呼んで声をかけてもらえることです。本当に少しずつではあるのですが、地域の住民の一人として認めていただけているんだなあと思えるときなのです。

日々、自立を目指し、いろいろな面で格闘している子どもたちのこくありふれた日曜日のひとときですが、こんな体験が今の彼ら彼女らを自信づけてくれたり、将来のどこかで何かの役に立ってくれたらうれしいなと思っています。そんな子どもたちのためにも、我々ももっと生き生きと生活していける環境になるよう新しい試みにも挑戦しながら進んでいきたいと考えています。今後とも皆様のこ支援、よろしくお願いいたします。

地域若者サポートステーション事業 とっとり・よなご 若者サポートステーション

所長 内藤 直人

よなご若者サポートステーション
開設半年を振り返って

通勤の汽車の中から見える大山も赤く

色づき、もつすべ雪も降りそうな雰囲気になってきました。よなごサポステが開所し、半年が過ぎました。半年間で約七十人の方が登録をされ継続的に支援を受けておられます。その多くが対人関係の不安や職に対する不安を抱えながらも生活の充実や自己実現のために就労や社会参加を希望されて来所をされています。そういった方に対して、就労を中心として社会参加に向けた相談やグループワークなどをしており、約二十人の方が進路を決定されている状況にあります。

また当所が設置されているフロアはハローワークをはじめとした西部の就労支援機関が集まっており、そういった関係機関からは困難ケースの受け入れ先として、概ね好評価を得ているところです。十月からは早期支援を目的として西部の各高校に訪問相談を開始しております。学校との連携の中では、発達障がいなどを背景として対人関係や今後の進路に困難を抱える生徒の相談が少数ながら寄せられています。そういった相談に関しては、学校のニーズと生徒のニーズがずれ違い、時にこちらも困惑することもあります。そんなときは鳥取こども学園の理念に沿って、やはり相談に来られる生徒の思いを中心に据えた支援を行うことで生徒本人だけでなく、学校の先生方にも

私どものよさを理解していただきつつあるところです。

よなごサポステは比較的、順調な滑り出しであったと感じている反面、東部であれば、法人の元々のバックアップやネットワークでやれていたことが、米子では一から構築しないといけない場面があり、法人がこれまで築き上げたものすこさを再認識しているところでもあります。ただ、十分な素地がないことによって、よなごスタッフはいろいろな機関を巡り、本当の意味で『顔を合わせた』機関連携が西部地域の中で構築できるチャンスを頂いていると考えています。

今年度も残りわずかになりましたが、青年期支援の基幹的相談機関として地域に根付いた支援に努め、鳥取東部だけでなく、当法人が鳥取県全域に貢献できればと考えております。

鳥取養育研究所

副運営委員長 米田 怜美

鳥取養育研究所は、二〇二二年に前身の鳥取養育研究会を発展的に解散し、社会福祉法人鳥取こども学園の公益事業と

して開所されました。

すべての子どもたちに人間としての尊厳と子どもらしい生活、多面的で調和のとれた発達を保障し、一人一人の子どもが大切にされる社会作りをめざしています。研究所員には、法人内外の施設・保育園など現場で働く職員、研究者、弁護士、医師など鳥取県内外で活躍中の九十名を超える方々の登録があります。子どもたち一人一人が権利の主体者として、いきいきと生活していける社会を作るため、議論・相互批判をし、ともに学びあいなから活動をしています。

今年度の主な事業には、研究発表大会、子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ、第三者評価事業があります。前身である研究会から引き継いでいる研究発表大会は八回目を数え、平成二十六年二月二日に開催。大会記念講演に臨床心理士で「子どもの権利のための国連NGO」日本支部副代表の横湯園子氏をお迎えし、分科会では保育、児童福祉、地域支援等分野別の実践発表を予定。参加者の活発な意見交換による明日からのより良い支援や研究に生かせる場となることを目指して準備を進めています。

今年で第三回となった「子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ」(平

成二十五年十一月二十七日～二十九日

(金)は、県内外に呼びかけ、鳥取県から全国へ、施設で生活する子どもの権利について発信する会です。子どもの権利を守ることにについては、これまで大人が子どもにしてはいけないことが中心に議論されてきました。しかし、してはならないことはいくら議論を重ねてもしてはならないことには変わりはありません。そして、そのことばかり議論していると、不安になり、何をすればいいのかわからなくなるのだということに私たちは気づきました。そこで私たちは、本当にすべき議論は私たちが子どもたちの権利を守るために何をすべきかということなのだと考え、「(大人が)してはならないことからするべきことへ」をテーマに掲げました。第一回、第二回、第三回共に参加者の所属も職種も経験年数もさまざまですが、話題を共有し参加者と講師・実行委員が対話し学びあっています。

第三者評価については、昨年、社会的養護の各施設は三年に一度の受審が義務づけられました。それに合わせ、研究所とは別に評価機関を立ち上げる検討を始めました。第三者評価受審に向け沢山の準備をしたにもかかわらず、良くないことを指摘されるだけで受けることに意味を見いだせないというのではもったいな

いことです。評価を受けることは、受審施設が日頃の支援を振り返り、普段見落としていたことに気づき、新たな視点を

得てスキルアップできるチャンスとして生かせることが重要です。そのように活用いただける機関の設立を目指しています。その他、ホームページで情報発信をしたり、所員向けのニュースで日頃それぞれの所員が養育に関してどのような考えや問題意識を持っているのか、他の所員と共有したいことなどを文章にして皆さんにお届けしています。

私たちにまだまだすべきこと、やりたいことがたくさんあります。皆様のご理解ご協力、ご支援をよろしくお願ひいたします。

はまむら作業所

はまむら作業所も二度目の冬を迎えようとしております。私達は浜村の地域の皆様や関係者の皆様の心温まるご支援もあり、日々事業が続けられている事を感じております。

本年は一年を通じ、振興センター・関係農家・企業の皆様の御協力もあり、定

期的に受託作業に参加できました。また、路地やビニールハウスの野菜育成、販売にも力を入れる事ができました。消費者の方から「あなたのお店の野菜おいしかったよ!」「また買いにきたい!」など、初めてお褒めの言葉を頂き作業所のメンバー皆が「働く事の意味、喜び」を実感する事ができました。はまむら作業所の利用メンバーの働く姿勢も本心に真剣で、事業所全体として初年度よりも成長できたのではないかと感じております。

就労活動の他にも、月一回の法人内の医療福祉の関係者会議や、月一回以上の利用メンバーとスタッフとの近隣地域でのレクリエーションを実施したり、本格的に食事提供を開始したりなど、プログラムの充実も図ってきました。更なる効果や実績はこれから出てくるものと信じ、これからも継続実施していきたいと思っております。

来年度は、就労活動内容や就労力キニラム等のさらなる充実を図り、作業所利用メンバーの技能の向上を図っていきたいと思っております。農業ばかりでなく加工等を含む就労活動ができ、一人でも多くの利用メンバーの就労支援に繋がればと思っております。関係者の皆様には、はまむら作業所が実習等をさせて頂く機会が



ありましたら、「ごっこ」指導よろしくお願ひ申し上げます。やる気と仕事への熱意は誰にも負けないがモットーです!!

これからも人と人の関わりを大切に、日々の学びを活動に活かし、就労支援に努めていきます。もしお近くまで寄られましたら、声をかけてやってください!!

メンバー一同お待ちしております!!

退所児童等アフターケア事業 ひだまり

全国組織

「ごどもっと」への参加

* 社会的養護の当事者グループネットワーク「ごどもっと」

社会的養護で育った当事者グループが集まり、活動報告や情報交換をしています。また、高校生を対象にしたキャンプやそれぞれの団体の活動がより良い活動をするための研修会などを行っています。社会的養護の制度政策への提言、社会的養護を多くの方に知っていただくための啓発活動にも取り組んでいます。

【ピア・キャンプ】



九月十四、十五日に第四回ピア・キャンプが行われ、レインポーズより二名、鳥取県より一名の高校生

が参加しました。高校生と当事者スタッフが全国の仲間と出会い、富士山のふもとで一緒に楽しみ、自信や希望をたくわえ心ももっと元気になることを目的として行われています。

今年、富士山が世界遺産に登録さ

れ、参加された方は良い思い出になったと思います。残念なことに台風の影響で二泊三日の予定が一日短くなってしまいました。

《参加した高校生の感想》

「自分の良い所をみんなに言ってもらえたことがすごく嬉しかった。もうこれみんなと深い話をするのが最後だと思っただけ良かったけど、将来のことについて語れて良かった。」

「自分だけが苦しい思いをしているわけじゃなかった。理由はみんなバラバラだけど、仲間がいるって思った。」

「他の施設のいろいろなタイプ、いろいろな理由でやってきた子たちと、たくさん触れ合うことが出来て楽しかった。イベントが出来なかったのは悲しいけど、これもこれで楽しかった。」

【グリーンケア研修】

六月三十日、研修交流プロジェクト「社会的養護の子どもの喪失と悲しみに向き合う」社会的養護とグリーンケア」が、ごどもっとと朝日新聞厚生文化事業団とで行われました。レインポーズより二名が参加しました。

大切な人を亡くす、大切な人に慮られる、大切な人と離ればなれになるなど、かけがえない人との関係を失った人が、その悲しみや喪失感を整理して自分らしく歩むための支援がグリーンケア

です。

このグリーンケアと支援者の養成プログラムに取り組む米国ハワイ州のキッズハートツーハワイ。米国のフォスターケアで育ったシ



ンシア・ホワイトさんと日本の社会的養護で暮らした伊藤ヒロさんが中心になって運営しています。当日は設立準備中のグループを含む七つの団体に所属する十人が集まりました。シンシアさんは、これまでの実績から、自分と同じような体験をしたことのある人を支援する際の課題を解説し、まずは自分自身のグリーンケアを知ることが必要と話しました。その後、シンシアさん、ヒロさんを含め、参加者が一人ずつ自分の体験などを語る「グリーンワーク」を体験しました。体験談の語りが終わると、日本の社会的養護やグリーンケア、キッズハートツーハワイでの取り組みなどについての意見交換や質疑応答が和やかな雰囲気の中で行われ、今後も研修を積んでいくことの必要性を共有して終わりました。

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、
後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、
下記のとおりです。
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (2013.6.1～11.22)

敬省略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
菜の花総合法律事務所	浜 本 五 十 鈴	渡 辺 隆 夫	浅 野 和 子
田 村 明 子	山 本 智 丈	医師法人と日産クリニック 代表 太田匡彦	川 口 孝 一
土 江 浜 代	杉 村 英 子	日海通信工業(株)鳥取支店	神 谷 哲 司
渡 邊 哲 次	小 竹 原 寛	砂 川 晋 治・真 理	束 原 克 美 子
松 本 勲	叶 原 土 筆	沖 かね 子	上 嶋 純 子
パルス電工(有)	ま ご こ ろ 庵	正 林 督 章	花 木 正 史
秋 崎 る り 子	梅 里 伸 正	栗 本 悦 子	(有)イナバ葬祭センター
岸 律 子	太田法律事務所 太田正志	福 永 裕 子	(有)ウコン自動車会
浜 田 素 子	鳥取鶏卵販売株式会社	竹 下 努 人	テ パ パ の 会 子
鳥取国府更生保護女性会	タニグチ・ヘアサロン 谷 口 義 明	橋 詰 隼 一 枝	竹 下 敏 子
医療法人社団 荻原医院	広 谷 笑 子	橋 詰 一 枝	(株)田中鉄工所
安 本 良 栄 二	鳥取商事株式会社 加 納 浩 理	高 草 あ す な ろ	(有) 葡 萄 屋 昭 郎
三 木 康 孝 昭	岸 恵 理 院	市 谷 経 哉・成 子	幾 野 裕 一 郎
池 成 孝 昭	医療法人社団 乾 医 院	岸 田 洋 子	宮 本 宇 太 郎 子
米 本 内 科 憲 義	山 田 健 朗 寺 徳	(株)岩田兼商店	勢 木 喜 代 子
朝 倉 通 直 義	天 徳 昌 文 子	野 田 修 秀	福 嶋 三 智 子
森 澤 直 耕 自 宏	高 橋 本 純 子	安 田 俊 秀	尾 崎 忠 文 臣
田 中 耕 宏 夫 子	小 竹 多 喜 仁 子	島 村 シ ョ ー	中 村 喜 正 顕
山 根 一 登 貴 子	柴 田 和 薫 子	(有)造園土木植清園	藤 井 喜 正 子
山口 登 貴 子	竹 本 薫 子	西 村 建 次 男	ゆうわ総合法律事務所
小 橋 房 治 正 治	貞 光 由 紀 智 次	木 村 和 子	石 田 雅 一 子
大月菓子製造株式会社 大坂正治	百 村 佐 勇 次	(有)因幡安田ひまわり保険	中 嶋 哲 浩 子
巻 田 廣 枝 博 子	川 端 美 知 子	湯 村 正 仁 美	山 根 浩 章 店
川 上 廣 枝 博 子	蔵 本 美 知 子	大 源 真 美	船 山 工 務 店
山 本 玲 子	ダイヤモンド電機(株)	鳥取東更生保護女性会	大 井 工 務 店
鳥 山 玲 子	大雲院地藏盆子供夜店	鳥取教会・愛真幼稚園合同バザー	豊 福 孝 明 子
上 島 武 晴 子	鳥取更生保護女性会 会長 小宮山富美子	中 島 陽 一 子	菊 池 ト 道 世 子
岡 田 武 晴 子	上 村 優 子	盛 田 和 子	谷 本 正 萬 子
田 中 和 子	(株)千代エンジニアリング	河 田 瑛 子	米 本 萬 文 子
(医)たなか小児科医院	増 田 千 尋 雄 子	大 北 美 津 子	今 里 文 禎 一 子
田 中 儀 衛 子	林 義 雄 子	浄土宗本願寺 谷 本 直 哉 子	斎 藤 禎 一 子
西 尾 美 智 子	増 田 慶 子	白 井 道 子	いしど歯科クリニック
柏 女 靈 峰 二 郎	濱 田 久 美 一 子	竹 田 江 海 子	(有)仕出し料理やまもと
林 敬 二 郎	奥 野 隆 一 子	建 部 恵 子	やまね青果(株)
下 石 義 忠 淳 子	山 本 伸 子	岩国市南河内地区民生児童委員協議会	松 谷 ポ ン プ (株)
西 田 由 利 恵 二 子	草 野 雅 昭 明 子	日本画グループ 鳥 白 岡 文 江 子	三 上 晃 江 子
西 村 由 利 恵 二 子	鳥 取 市 仏 教 会 明 子	(有) 亀 井 堂 弘 子	中 村 敏 江 子
(株)コタみどり	江 谷 孝 夫 望 子	市 谷 年 祐 司 学 子	(有)岸田ガラス店
福 前 悦 子	三木眼科 三木統夫	小 谷 祐 子	井 上 裕 子
	植 田 望 子	山 下 学 子	飯 塚 幹 夫

氏名	氏名	氏名	氏名
福田 眞	駒井 重忠	ローマ鳥取店	田山 喜久雄
二村 繁美	原田 快子	鳥取いなばライオネスクラブ	鳥取市社会福祉協議会
吉田 信仁	望月 温子	キままッズCLUB	金谷 篤 諮
鳥取工業ミシン協会	奥野 政子	内海 敏	ラスベガス智頭店
鳥取緑風高等学校職員一同	中村 匡子	毛利 薫	加藤 隆 夫子
松浦 静江	高 医 院	城戸 法文	河 口 欣 微 子
玉木 敏久	黒川 和子	安住 庸 雄	前 田 豊 氏
山本 隆史	池上 聡一	海藤 ひろみ	無 名 氏
鳥取市城北地区青葉会 会長 前田 崇明	(株) 三 栄	古川 潤一	
井上 信正	谷 口 鉄之助	安 藤 信 子	

物品寄付者 (2013.6.1~11.20)

敬省略

氏名	氏名	氏名	氏名
パンドラの箱	大 隣 寺	福田 眞	ハワイ動物病院
UFO 扇町店	川上 和昭	(株) コクヨ M V P	鳥取県運動用具商協同組合
スリーパー鳥取店	大和建設株式会社	橋本 佳忠	ハマモト
UFO 秋里店	(株) ガイア 広島駅前店	南 條 和子	白 岩 宏 人
フードバンク鳥取みもぎの会	田中 陽子	NPO法人タイガーマスク基金	南 條 吉 浩
奥 田	森 本 和 貴	桑 原 東 子	武 田 一
海藤 ひろみ	徳 田 商 店	松 田 幸 貴	鳥取南更生保護女性会
川 口 真由美	吉 田 加 代 子	村 本	坂 本 亨
UFO 安長店	坂 田 澄 子	有 本 芳 和	竹 本 芳 宏
(株) ヤマネ 機材	柳 田 次 郎	加 藤 吉 利	鳥取市稲葉山地区自治会会長 古川潤一
鳥取 廣 信 青 果	鳥取県ろうあ団体連合会女性部	(株) イエロースタジオ	無 名 氏

公用車が新しくなりました!(^^)!

今年度、公益財団法人JKA様より競輪公益資金の補助を頂き、児童養護施設の公用車を整備しました。待望の新車の横には、5人の競輪選手が一行になって走っている、カラフルで明るいデザイン標識が表示されています。これからも利用者が安全・安心・快適に使用して頂けるよう整備しますので、きれいに使って下さいね。



会費・寄付金は下記へお願いします

鳥取子ども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取子ども学園内
☎(0857)22-4206・21-9551 FAX 23-0242

振込口座名義：社会福祉法人鳥取子ども学園 理事長 尾崎 淑子
振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812
鳥取銀行本店 普通 7645611

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただけますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。